

第4回 蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議 公共施設のあり方に関する提言書について

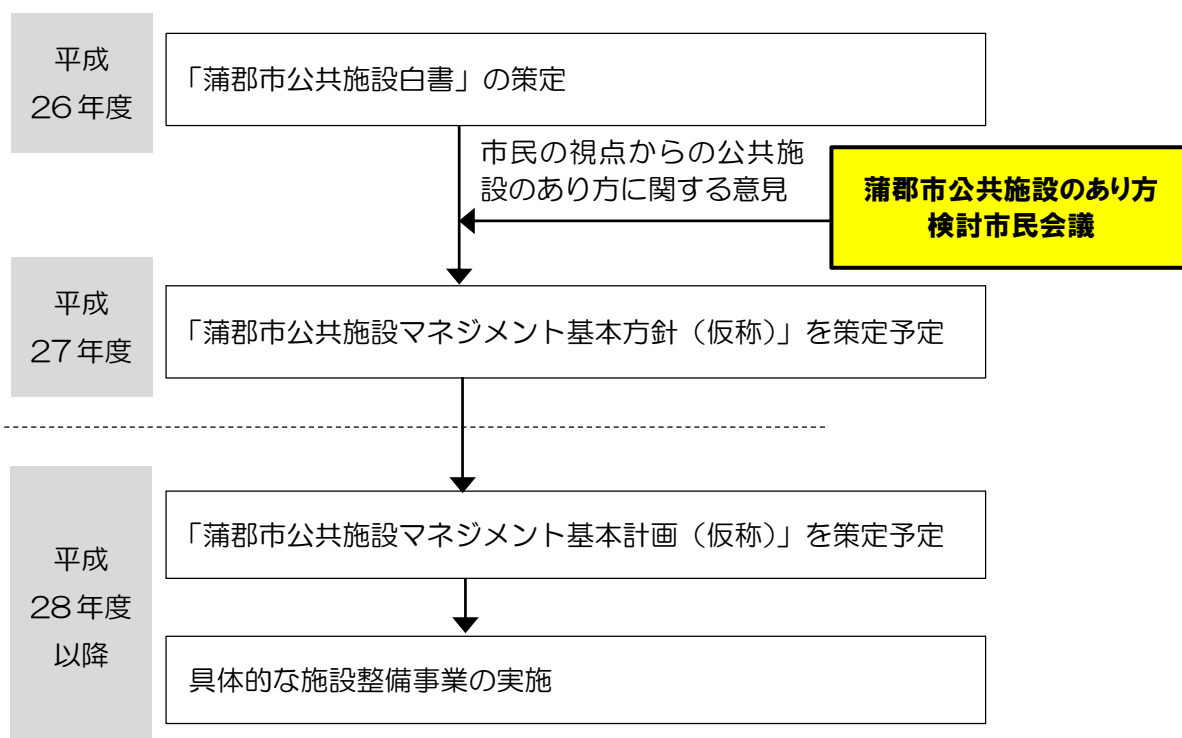
1. 提言書の位置づけ

蒲郡市では、公共施設マネジメントを進めるため、下図の通り、公共施設白書や公共施設マネジメント基本方針（仮称）、公共施設マネジメント計画（仮称）を策定し、公共施設の再編事業を実施していく予定です。

平成26年度には「蒲郡市公共施設白書」を策定し、公共施設に関する基礎的なデータを整理したところです。本年度はこれらのデータを踏まえ、公共施設の再編にあたっての基本的な考え方をとりまとめる「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針（仮称）」を策定する予定です。

本市民会議は、実際に公共施設を利用する市民の視点から将来を見据えた公共施設のあり方を議論し、会議の成果として提言書としてとりまとめ、市に提出します。

●蒲郡市公共施設マネジメントの流れ



2. 提言書の内容について

本日の市民会議では、この会議の成果として市に提出する提言書に含める下記の3つのテーマについて議論を進めたいと思います。

- ①財政状況や社会情勢の変化を踏まえた公共施設のあり方
- ②まちの魅力を高めるための公共施設のあり方
- ③公共施設マネジメントの推進方策のあり方[M1]

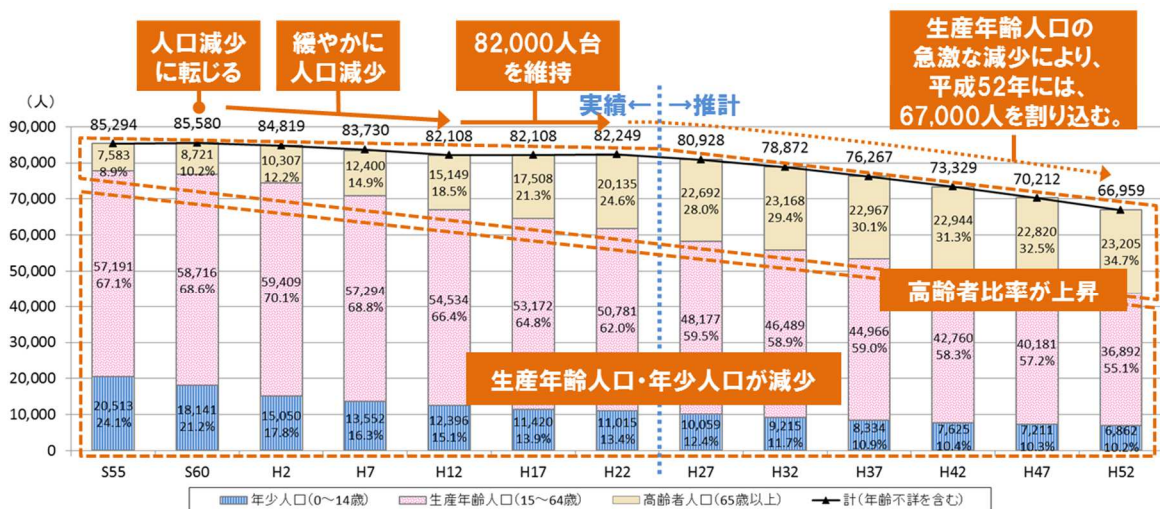
この他にも提言書の構成に関する意見（「こんな項目も盛り込んだ方が良い」等）もあれば、ご意見ください。

①財政状況や社会情勢の変化を踏まえた公共施設のあり方

蒲郡市ではこれまで、人口増加や高度経済成長、昭和50年代までの潤沢なモーターボート競走会費からの繰入金などを背景に施設整備を進めてきましたが、人口減少や少子高齢化を迎え、財政状況も厳しくなっており、これらを踏まえた公共施設のあり方を検討する必要があります。

●人口推移の状況(蒲郡市公共施設白書より)

- ・人口は昭和60年以降緩やかに減少を続けたものの、平成12年からの10年間は82,000人台を維持しています。将来人口は、平成52年に67,000人を割り込むまで減少すると見込まれています。
- ・平成22年から平成52年の間に、生産年齢人口は50,781人(62.0%)から36,892人(55.1%)に減少し、これに伴う税収減などが見込まれます。一方で、高齢者人口は20,135人(24.6%)から23,205人(34.7%)と、特に高齢者比率が上昇しており、より少ない生産年齢人口で高齢者を支える構造となります。

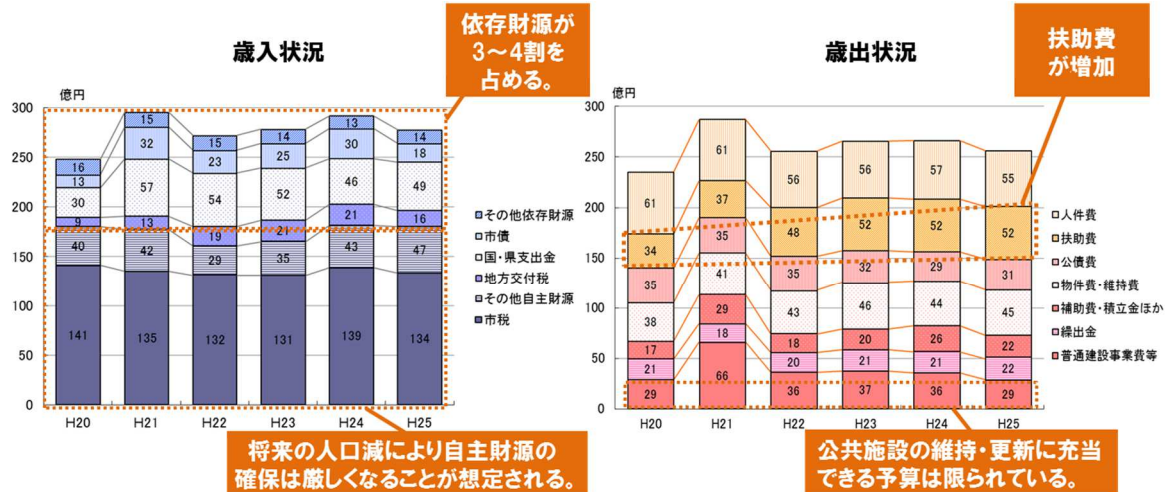


※実績値は、各年の国勢調査をもとに作成。

※推計値は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値(平成22年国勢調査をもとに平成25年3月に公表)をもとに作成。

●財政状況(蒲郡市公共施設白書より)

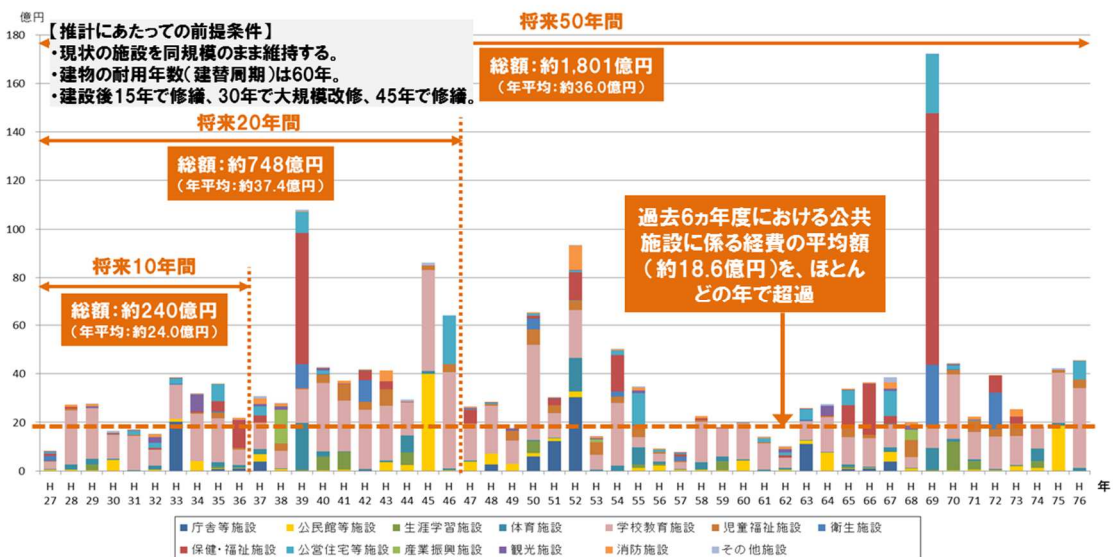
- ・歳出状況を見ると、平成 20 年度から 25 年度にかけて、扶助費が増加傾向にあります。高齢化が進むことを踏まえると、将来はさらに扶助費の増加が考えられ、財政状況を圧迫する要因となることが想定されます。



※普通会計による金額。
 ※総務省地方財政状況調査関係資料をもとに作成。

●公共施設の維持・更新にかかる将来費用(蒲郡市公共施設白書より)

- ・公共施設の維持・更新にかかる費用は、将来 10 年間では総額約 240 億円(年平均約 24.0 億円)、将来 20 年間では約 748 億円(年平均 37.4 億円)、将来 50 年間では総額約 1,801 億円(年平均約 36.0 億円)と推計されています。10~20 年後の費用が特に高く、厳しい状況になります。
- ・過去 6 カ年度における普通建設事業費等のうち公共施設に係る経費は約 18.6 億円であり、大半の年で公共施設の維持・更新にかかる費用が現状の公共施設に係る経費を上回っています。

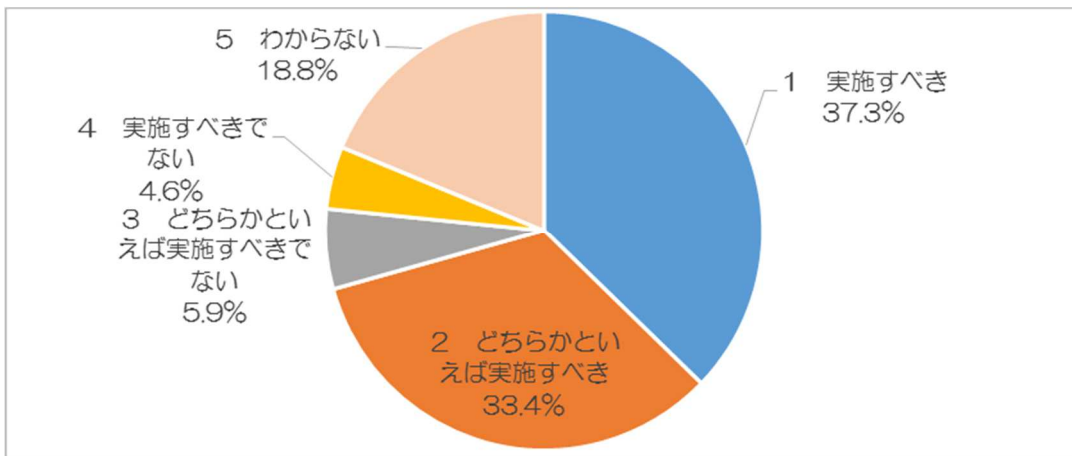


※競艇場は、別会計にて修繕・改修を行っているため、推計対象から除外している。

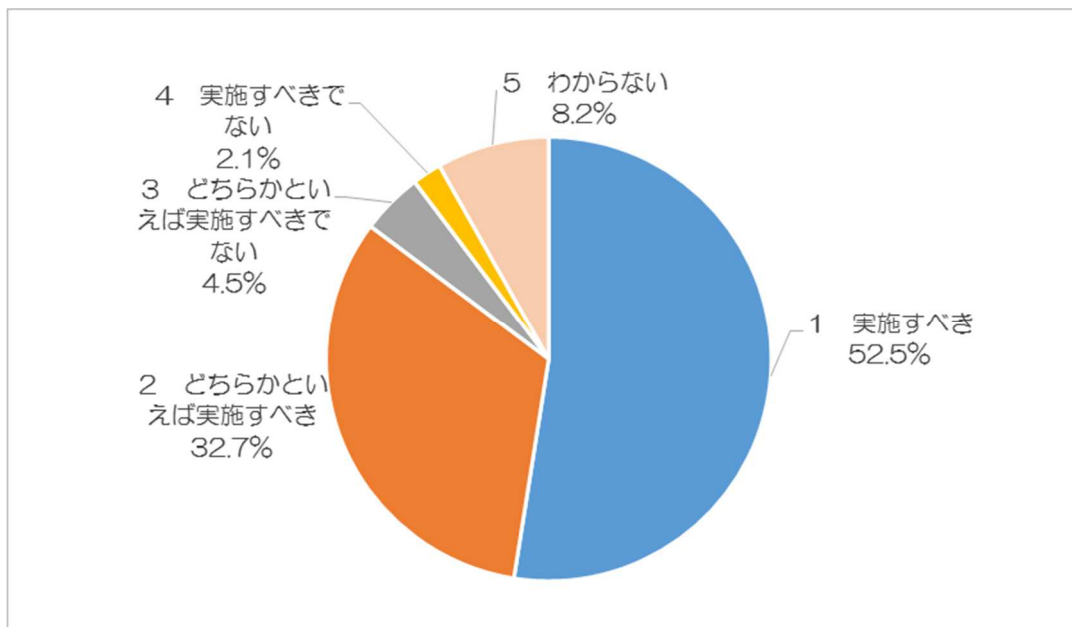
●公共施設のあり方に関するアンケート調査結果

・「現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす」「あまり使用されていない公共施設は廃止又は縮小する」といった取組みについて、「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」という回答が7割以上となっており、施設の統廃合・縮減による費用削減の取組みが必要とされていることが伺えます。

① 現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす



⑧ あまり利用されていない公共施設は廃止又は縮小する



●これまでの市民会議における意見

これまでの市民会議では、以下のような意見が出されました。

■財政状況・人口規模を考慮した施設整備

- ・現在および将来の税収や人口を考慮した、「身の丈にあった」施設整備が必要。
- ・何もしないままでは公共サービスは肥大化する。「我慢」も必要。

■複合化・統廃合による運営効率化

- ・施設の複合化・統廃合で、運営を効率化するとともに、利便性を高めることが必要。利便性を高めることで利用料収入の増加なども実現できる。
- ・複合化・統廃合によって余剰となった市有地が増えれば、施設を配置する候補地が増え、さらに効率的な施設配置を行うことができる。
- ・出身学校に対する愛着などはあるが、将来世代に負担を残さないためにも、厳しい目で統廃合を検討する必要がある。
- ・廃止した直後は反対が出るが、結果的には問題がない場合もある（例：市民プール）。

■規模の縮小

- ・これ以上、施設の規模を拡大する必要はない。
- ・建替時に小規模な施設にすることで、余剰となった敷地を用いて、他の施設との複合化等が可能になる。

■初期投資の抑制

- ・新たな施設建設などの初期投資は極力抑え、ランニングコストに資金を投入できるようにするべきではないか。
- ・民間資金の活用を検討して初期投資を削減する。

■利用料金の適正化

- ・市営であれば低額な利用料金で利用できると思ってしまうが、税金で賄われていることを意識することが必要。
- ・蒲郡市は利用料が無料の施設が多い。利用料金の設定を再検討する必要がある。

■民間との協働促進

- ・民間が運営可能な施設がある（観光施設、高齢者福祉施設等）。
- ・民間施設内で公共サービスを提供してもらう（住民票の発行）。
- ・指定管理制度の活用や、PFIの仕組みの活用、民間への譲渡、既に民間施設がある場合は市営施設を廃止するなど、民間との協働を促進する必要がある。

■近隣自治体との連携

- 近隣自治体を含めた広域的な視点で、施設の相互利用を検討することが必要。

●財政状況や社会情勢の変化を踏まえた公共施設のあり方について

人口推移の状況、財政状況、アンケート結果等を踏まえ、これまでの市民会議における意見のうち特に重視すべき点や、これまで出されていない新たな意見などについて、議論ください。

まず、ご自身の意見を記録シートに記入いただき、その後ディスカッションを行います。

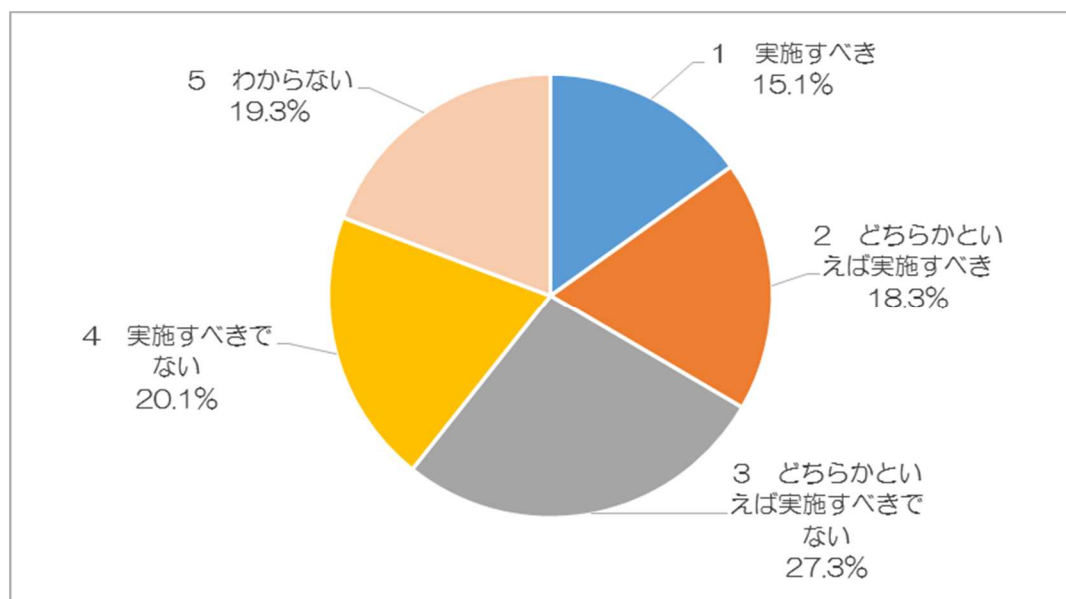
②まちの魅力を高めるための公共施設のあり方

公共施設は、市民の暮らしを豊かにし、まち全体の魅力を高める役割を担っています。財政状況が厳しい中でも、効率的に適切なサービスを提供し、まちの魅力を高めるような公共施設のあり方を検討する必要があります。

●公共施設のあり方に関するアンケート調査結果

- 「現在ある公共施設の統廃合によって施設の総量や整備費を減らす」「あまり使用されていない公共施設は廃止又は縮小する」といった取組みについては、「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」という回答が7割以上となっている一方、「運営費や運営時間など、サービスの水準を引き下げ、コストを削減する」という取組みについては、「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」という回答が3割程度と相対的に少なく、サービス水準の維持・向上が必要とされていることが伺えます。

⑥ 運営費や運営時間など、サービスの水準を引き下げ、コストを削減する



●これまでの市民会議における意見

これまでの市民会議では、以下のような意見が出されました。

■複合化による新たな効果の創出

- ・複合化することによって、新たな効果を創出できる可能性がある（学校と公民館を複合化することで、子どもと地域の交流が進む等）。

■交通を踏まえた施設配置の検討

- ・実際にどのような時間帯に、どの程度使われるかを調査・分析し、駐車場規模等の適正化を図る必要がある。
- ・今後の高齢化を踏まえると、集会施設や福祉施設については、公共交通で利用しやすい配置が必要。
- ・公共施設の適正配置により、名鉄蒲郡線の利用促進を図り、名鉄蒲郡線維持の問題を解決することもできるのではないか。

■市民の生活行動に即した施設整備

- ・「蒲郡駅周辺に時間を潰せる場所が少ない」「ついでに住民票の発行などができれば良いのに」といった形で、生活上不便な点が多い。
- ・市民の生活行動に即した施設整備を行うことによって、利用向上を図れるのではないか。

■地域に密着した運営

- ・形原公民館は地域に密着しており「何かあったら公民館へ」となっている。その結果、利用者数が2万人以上となっている。行政が地域に即した運営を行うとともに、住民も施設を地域の拠点という意識を持ち、地域に密着した施設にすることが必要。
- ・地域性を詳細に調査することで、「魅力ある施設」を築くことができる。
- ・同じ種類の施設であっても、地域によって使われ方や市民のニーズが異なる。

■ハードではなくソフトでのサービス提供

- ・建物（ハード）を所有するのではなく、ソフト事業でサービスを提供するといった方法の検討が必要（市営住宅を整備するのではなく住宅補助を充実させる、プール等を整備するのではなく民間施設の利用券を配布する等）。

●まちの魅力を高めるための公共施設のあり方について

アンケート結果等を踏まえ、これまでの市民会議における意見のうち特に重視すべき点や、これまで出されていない新たな意見などについて、議論ください。

ご自身の意見を記録シートに記入いただいた後、ディスカッションを行います。

③公共施設マネジメントの推進方策のあり方

公共施設マネジメントを適切かつ確実に推進するために、既に取り組んでいる自治体では、資料2の通り、PDCA サイクルによる管理やロードマップの作成、庁内横断的な推進体制の構築など、様々な方策を行っています。

効果が大きいと思われる推進方策、逆に効果が出ない・実施が難しいと思われる推進方策、蒲郡市について、お考えください。その他に取り組むべき推進方策があれば、あわせてお考えください。

また、それらの推進方策の中から、蒲郡市が優先的に取り組むべきものについて、優先度が高いものから3つ挙げてください。

最後に市民としてどう公共施設マネジメントに関わっていきたいか、お考えください。

まず、ご自身の意見を記録シートに記入いただき、その後ディスカッションを行います。

●先進自治体の取り組み等を踏まえた公共施設マネジメントの推進方策例

- ・PDCA サイクルによる管理
- ・ロードマップの作成
- ・庁内横断的な推進体制の構築
- ・施設の役割・機能別のマネジメント（全市的に利用する施設、地域単位で利用する施設に分類し、それぞれのマネジメント計画を策定する等）
- ・縮減割合等に関する数値目標の設定
- ・市民への積極的な情報開示
- ・市民会議の設置など、市民との協働体制の構築
- ・広域連携による公共施設マネジメント

提出

会議終了時に机の上に置いてお帰り下さい。

御名前（ ）

①財政状況や社会情勢の変化を踏まえた公共施設のあり方

人口推移の状況、財政状況、アンケート結果等を踏まえ、これまでの市民会議における意見のうち特に重視すべき点や、これまで出されていない新たな意見などについて、ご自由にご記入ください。

②まちの魅力を高めるための公共施設のあり方

アンケート結果等を踏まえ、これまでの市民会議における意見のうち特に重視すべき点や、これまで出されていない新たな意見などについて、ご自由にご記入ください。

③公共施設マネジメントの推進方策のあり方

公共施設マネジメントを適切かつ確実に推進するための方策について、①～③のそれぞれに対するご意見をご記入ください。

①効果が大きいと思われる推進方策	推進方策名 ※「PDCA サイクルによる管理」、「ロードマップの作成」等から選んでください。	
	効果が大きいと考える理由	
②効果が出ない・実施が難しいと思われる推進方策	推進方策名 ※「PDCA サイクルによる管理」、「ロードマップの作成」等から選んでください	
	効果が出ない・実施が難しいと考える理由	
③その他に取り組むべき推進方策	推進方策名 ※自由に名称をつけてください。	
	取り組むべきと考える理由	
④蒲郡市が優先的に取り組むべき方策	優先順位 1	
	優先順位 2	
	優先順位 3	
⑤市民としてどう公共施設マネジメントに関わっていきたいか		